

○タウンミーティング議事録(概要)

日 時:令和3年10月10日(日)

午前10時から午前11時45分まで

場 所:大沢野生涯学習センター 大ホール

出席者:22人

テーマ 第2次富山市総合計画後期基本計画(案)について

【テーマの説明に対する質問】

・おでかけ定期券について、午前9時から午後5時という利用時間帯は使い勝手が良くなく、もう少し長くして欲しいと思います。早くから遅くまで利用すると何か差し障りがあるのかとも思いますが、利用している人からはそのような声があります。

二つ目に、古い橋梁も含めて橋梁が二千いくつあるという話でしたが、大山の方ではどこかの橋をもう使えなくしたと聞きました。その理由は新聞を見てわかったのですが、そのような未来で起こり得る住民からみたら都合の悪い話は、できれば早めに伝えていただきたいと思います。

最後に、富山市も残念ながら少子高齢化で人口が減っていくということでした。しかし、私は転勤族で東京、大阪、名古屋にいましたが、富山県、富山市というのは非常に子育てもしやすく、住みやすいところだと思います。それを、富山県、富山市の人はもっとアピールしたらいいと思います。自然災害も比較的少ないし、住みやすい、子育てもしやすい。そのような良いところをぜひアピールすることも考えて今後の政策を進めていただきたいと思います。

(市長)

おでかけ定期券の利用時間帯が午前9時から午後5時ということで、不都合を感じ

ておられる方が多いと思います。今のご意見のとおり、不便があることは承知しております。

また、公共施設や公共インフラはおっしゃるとおりであり、例えば(大山地域の)瓶岩橋ですが、平成27年に方針を決めました。落橋の恐れがあり、修復が不可能な状態で、残すとした場合、架け替えしかないわけではありますが、今の利用状況を見て、住民の皆さんに、撤去させて欲しいということをお願いをしたという経緯があります。

自治会から存続させて欲しいという要望が提出されておりますが、前市長も私になってからも、やはりすべての橋を存続させるということは不可能でありますので、将来世代へのツケまわしをもうしないということで、残す橋、補修して延命させる橋、架け替える橋、撤去する橋というふうに分けさせていただき、(瓶岩橋は)撤去する橋に入れさせていただいて、今日に至っているところであります。これは橋梁に限ることだけではなく、様々な公共施設や公共インフラにも言えることです。最後のページに公共施設の維持管理コストの話もグラフで出ておりますが、これをしっかり、住民の皆さんに理解していただきながら、早めに情報交換を始めて、すべての理解は不可能かもしれませんが、そのような方針で今後進めていきたいと思っております。

また、富山市が住みよいまちである、子育てをしやすいまちであるということに関して、富山市は子育て施策の充実度や全体予算にかける子育て施策や高齢者施策における予算の割合が、中核市の中でも大変充実しているというのが現状です。それを感じておられる方、残念ながらなかなかそれを感じておられない方、様々ですが、これは税金を投入するという大前提に立っていますので、なるべく多くの方々が納得して利用していただける施策を続けていく、必要があれば、新しい施策もやってきたいと思っております。

なお、おっしゃるとおり、高齢社会になっても、元気で幸せに長生きしていただければ、これほどいいことはないわけであり、そうではない状態になったときにどうするかという問題があると思っておりますので、福祉に関する経費、医療、介護などの予算は年々右肩上がり、今後も上がるのではないかとと言われておりますが、税金の無駄がないように投入していきたいと考えております。

(企画管理部長)

おでかけ定期券の利用時間の延長ということですが、これは様々な方からもご要望があり、富山市議会でも、これまで多くの議員の方から、もう少し時間を拡充できないかと、ご質問いただいているところです。

結論から申しますと、これは富山地方鉄道さんが路線バスや電車の運行をしていらっしゃるのです。富山地方鉄道さんのご理解がないと、この時間延長というのは非常に難しいというのが正直な話です。やはり朝夕の学生や社会人の方の利用で混雑する時間帯を高齢者の方も利用されるということになると、運行上もいろいろ課題があります。また、一定程度、富山地方鉄道側のご負担があり、当然、富山市も一部支援をさせていただいておりますが、富山地方鉄道さん側の経営という課題もあります。これまでもこうしたご要望があったということで、地鉄側とは何度も協議をさせていただいておりますが、やはり地鉄側のご理解、ご了承が得られないということから、この午前9時から午後5時という時間帯での対応をお願いせざるを得ないという現実がありますので、何とかご理解をいただければと思います。

・大沢野地域の当面の関心事は令和5年4月に完成する複合施設であると思います。そこで、その令和5年4月までの進捗状況が、今のところ順調にきているか、そして、その名称をどういうふうに決められるのか、公募されるのかその他の方法で決められるのか、お聞かせください。

(市長)

スケジュールについては、ほぼ順調にきていると思います。

ネーミングにつきましては、まだそこまで至ってないので、スケジュールができ次第すぐにお伝えいたします。

・企業誘致について素晴らしい企業団地などを造っていただいているところ、また、スケッチラボについても素晴らしい取り組みだと思います。

企業誘致のところで、コロナ禍になってからテレワークやリモートワーク、ワーケーションなどを耳にされることが多いかと思います。ワーケーションについては、北海道富良野市が、補助金を付けたりして、企業の方に積極的に誘致を進めているという例があります。富山市でもそのような取り組みがあるのかどうか、お願いできるのであれば、今後ともその方向で進めていただきたいということです。

さきほどのお話にあったとおり、富山市は本当に住みやすく、子育てのしやすいところだと思っています。私は県外から嫁いで、二十数年たったところですが、自分の子供が、一旦は首都圏の大学に行ったわけですが、就職するにあたり、やはり富山市に戻ってきたいというようなことも言うようになってきました。また、県内出身、富山市出身ではなくても、本当に魅力がたくさんありますので、ここに縁がない方々に向けての発信やテレワーク、ワーケーションの誘致をとおして、ご縁ができる方が増えたらと思います。

とほ活のポイントについて、まちなかのイベントでポイントが付くというお話でしたが、立山山麓のウォーキングイベントなども対象となっているのでしょうか。

子育て世代包括支援センターができたということですが、このような素晴らしいネットワークを指揮してもらえるとありがたく思います。ここに乘っかっている各種団体の連絡会のようなものを主催していただき、オンラインも含めて各団体が一度に会せるような情報交換の機会を設けて欲しいです。

(市長)

企業団地とワーケーションということでしたが、富山市内の企業団地は製造業を中心に、ほぼ一杯の状態になっています。県外の企業の方に聞くと、富山県の豊富な水資源や空気の良さ、緑の豊富さ、そして富山県民は勤勉であるというようなことが大きな理由に挙げられます。また、陸上の輸送について、道路の整備が進んでおり、高速道路など含め、非常に便利だということもよく理由に挙げられます。非常にうれしく思います。

この2年間、コロナ禍を経て、ワーケーション等の推進に各自治体に取り組んでおります。富山市も2地域居住など推進しておりますし、今後、力を入れていかなければいけないと思っております。

息子さんのUターンの話をしていただき、ありがとうございます。大変うれしい限りです。若い人が、生まれたところでしっかり結婚して子育てして、仕事もしっかりしていきたいと思ってもらえるのが一番ありがたいと思いますので、そのように思われるような教育や地域の方々の繋がりなどをしっかり残していきたいと思います。

富山大学は、7割が県外出身者です。ほとんどの方が富山に残らず、地元に戻られる方が多いです。そのような富山大学や県立大学の学生の方に対しても、少しでも富山で働いていただけるように、5年間富山市内の企業で働いていただければ、お貸した奨学金は返済不要になる(対象は富山市に住所を有する保護者の世帯に属する学生のみ)など、このような施策も進めておりますので、力を入れていきたいと思っております。

とほ活のポイントにつきましては、とほ活のホームページやアプリに情報が載っておりますので、調べてお知らせします。

子育て世代包括支援センターなどの取り組みについて、関係者への周知や連絡調整会議は一部でやっておりますが、個別の地域の事情もありますので、呼びかけが足りないようであれば、このような意見があったということで検討してみます。たくさんの方々に関わっていただければ、これほど心強いことはないと思います。さらなる子育てのしやすさにも繋がっていくと思っておりますので、今後ともよろしく願います。

・学校の統廃合について、新聞報道でも様々な地域のことが発表されており、私どもの船嶽小学校の名前も出てきます。私のような年配の者は昔を思い出し、学校がなくなることにより賛成ではないという意見なんですが、若者の方では、すでにこの地を出て他のところに住んでいる者もいます。逆に、このような地を求めて、こちらに来られる方もいます。

その中で、前向きに考えている若者のグループから、いずれなくなるものとして、この

校舎をどうやって活用しようか、市の方はどのように考えているかということをお聞きしますが、私は答えようもありません。船峯地区の若者でグループを作っており、私も協力していますが、その若者たちに誘われ、南砺市のいわゆる商工会の中にある協議会に同行してきました。行ってみると一生懸命、その村に人が来るように、あるいは村の産業が活発になるように、村の人達が希望を持って明日も明後日も大胆にやるぞと、そういう希望を持った意見を言い合えるような雰囲気でした。

様々な制約やお金があるないということもありますが、物をたたむというときには、そこにいる関係する人たちが次の希望を持てるような体制、意見、または情報もらうだけでもプランを立てやすいと思います。私どもの若者は、次のプランに向かってすでに動いています。市当局よりも早く動いていると思います。私はその点を強調して、そのような様々なプランを出して欲しいと思っています。

(市長)

春に小学校の再編ということで、ワークショップをさせていただき、未来の自分の地域の小学校がどうあるべきかという姿を皆さんで話し合ってくださいました。令和3年度末には、クラス数や生徒数について機械的なことだけでの再編計画を出しますので、それについて地域の意見をぶつけていただくという進め方になっていきます。

このことについて、来年はしっかりと皆さんとお話したいと思っています。その中で、もしなくなったとしたら跡地をどうするか、あとに何か元気になれる希望を持てるようなものがないかという視点は、一番大事であります。必要があれば、富山県や周辺市町村とも意見交換しながら、県と市の施設、体育館なんかもそうですが、同じような施設がたくさんあるわけです。高校の体育館、小中学校の体育館等でも含めて、同じようなものが非常にたくさんあるという中で、もしかしたら一緒に統合して運営していける、あるいはどこかに移転して、例えば小中学校の跡地があれば、適地に移転することで県や市が運営にかけている過大な負担を統合できるんじゃないかとか、このようなことも市と県がスクラムを組んで、議論を始めなければならないと思っています。

そのような若いグループを含めて、住民の皆さんが、将来の学校をどうするのか、あるいは、もしなくなったら、この地域を元気にするために、この場所をどう生かしていけばいいのかということを実際に議論することは大切だと思います。市としても、先進事例などがあれば事例提供を行ったり、一緒に考える場を設けるなど、そのような取り組みもしていきたいと思ひますし、ご提案をいただければと思ひます。市としても真剣に、向き合せていただきます。

【その他意見交換】

・富山県は最低賃金が富山、石川、福井で一番高いです。新聞によれば富山県の世帯収入は全国で 2 位です。先ほど上場企業などの話もありましたが、要は富山県に住むと、給料がいい会社がいっぱいあると、だから住みたい、子どももそこで育てたいというようになれば、高齢化は別として少子化のところはスピードを緩やかにしていくポイントになるように思ひます。富山市としても、民間を巻き込んで知恵を出しながら、いい会社を作る、または呼んでくるなどして、給料の良い、生活しやすい、そういった富山市、富山県を目指していただきたいと思います。

(市長)

貴重なご意見として承ります。ぜひ参考にして進めて参りたいと思ひます。

※発言の一部を整理して掲載しています(広報課)